

『2分で読切り アシコン・ニュースレター』

発行 アシストコンサルティング 江尻幸雄

名刺等を交換させて頂いた方へ2週間おきにお送りしています。何かしらでも皆様のお役にできれば幸いです。送信不要の場合、お手数ですが空メールの返信をお願い致します。

アシコン・ニュースレター 今回のテーマは、、、『チーム・ビルディング』です

少し前の事となりましたがピョンチャンオリンピック、素晴らしかったですね。楽しくテレビを見る機会を与えてくれました。スポーツは集団で行うことが多いので、チームの成り立ちについて考察します。

●スポーツとビジネスは似ている！？

サッカーなどの集団のスポーツでは高い能力を持つメンバーを揃えたからと言って必ずしも良いパフォーマンスにつながることを私達は経験則から知っています。時には戦力的に劣るチームの方が勝ったりします。その原因とは、目標や目的の置き方にあり、時としてそれがチームの元来の能力を引き上げるからだと言われています。

このような“個人能力の総和<個人能力の相乗”と言うような図式が成立するなら、“個人能力の相乗”とは個人の能力向上を図るだけでなく、チーム(“グループ”ではないことにご注意を!)としての取組み方や育て方と言うことが重要となります。

これはビジネス組織の現場にも当てはまりそうです。特に人手不足や外国人労働者の増加などで様々な価値観があふれている現代においては役職、年齢、国籍を超え認識を共有できるチームを作り上げる意義はたいへん大きなものです。ではチームを作り上げる事(チーム・ビルディング)に関する実際の取組みについて見てみましょう。

●チーム・ビルディングの役割

組織の中では様々な集団的行動を担うチームが存在します。どのチームでも目標を通常有しています。

人は自分で目標を決定すれば(実はその決定プロセスが大切なのですが)能動的に動くと言われていますが、現実を直視すると、普通の人誰でも簡単に行えるものではありません。だからチームとして目標を決定し、そこに個人の目標を写し絵のように重ねます。

●チーム・ビルディングの取組み

聖徳太子の言葉に「和を以て貴しとなす」なる言葉があります。この「和」の意味は“やみくもに迎合するのではなく、相手の価値観も認め、バランスをとっていく”ということ。価値観や考え方の違いを理解し、受入れ、相手を信頼することから始めることです。当たり前の事ですが、**人は目的実現のためのツールではない**、もっと主体的な存在であると言うことです。但し、現実問題として社風が異なる者はやがて組織を離れていくことが多いと思われれます。

さて、通常私達が行うチーム・ビルディングでは、全社員が参加して日帰り6時間、もしくは泊りがけ10時間の研修スタイルで行います。その内容の概要は

- ① 車座になって今日一日への取組みに対する思いを発表
- ② 緊張を解くための簡単なゲームの実施
- ③ 自分の仕事や人生の背景を話すことで相互理解の準備
- ④ “話し合いの7つのルール”を提示し、全員が守ることで安心して話せる場を作る
- ⑤ ブレーンストーミングなどにより“共有する目標”を明確にする
- ⑥ サンキュー・コールで締めくくる

4月、5月は研修が増える月です。個人のスキルアップや目標・目的の共有化等の研修もあります。ただ、一過性でなく年間の中で計画的に実施する方が良いでしょう。

かく言う私も4月に研修のお仕事を頂いています。今から楽しみです。最後までお読み頂きありがとうございます。